

2012たけのこ目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】88番地						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	担当
		自己評価結果をみると「普通の暮らし」の共通理解ができていないことが分かった。	理念の共有化を深める。	朝・夕の申し送り。ケア会議。業務ノートへのコメント。研修会を通してその有する能力に応じた「普通の暮らし」を共有化していく。	6ヶ月	事務所
		日々のケアは行えている。さらに自己目標を持って仕事に取り組む積極的な姿勢も持ってほしい。	自己目標を持って仕事に取り組む。	一人一人が目標達成計画を作成しその達成を意識しながらまずは6ヶ月を働く。6ヵ月後、達成状況を振り返り、新たな目標や目標の変更や方法の変更を図りながら、次の6ヶ月に取り組む。	6～12ヶ月	全職員
					ヶ月	
					ヶ月	
					ヶ月	

目標達成計画

作成日: 平成 23年 12月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】85番地						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	担当
1	1・24・37・38	外出など、スタッフだけの考えで行っていないか？特に自己決定等できない方に対して本人に合わせた支援が行われているか見直したい。	これまでの生活歴をもう一度見直し、今のその方の状況に合わせた外出支援・生活支援を行う。	希望を表せない方については、家人さんより情報を得る。できることはケアに取り入れたり、ユニットの中で外出できそうな日を何日か決め、ドライブや思い出の地へ行ってみたい。	12ヶ月	藤原未来
2		家人さんが来訪された時など眠ってしまったりいたり、良い状態、良い表情のあることを伝えたい。	良い表情の様子を残す。良い状態を伝える。	良い場面を見逃さず写真に残す。年末には写真つき年賀状を家族へ送るよう準備する。字を書ける人は手紙を書いてもらう。利用者の様子を動画に収めDVDにして家に送る。四季に合わせて記録を残す。	12ヶ月	藤原未来
3	41	普通食を食べられない方3名のメニューが固定している。消化に良いものを調べたがそれを活用できていない。	嚥下食メニューを豊かにする。	主治医と相談をしながら他のメニューも増せないか検討していきたい。他のスタッフにも分かり易いように伝達する材料をそろえる。	6ヶ月	藤原未来
4	43	食事メニューのマンネリ化。便秘改善メニューが不十分である。	食事メニューを豊かにする。誕生日には利用者の好みのメニューを食べられるようにする。	食事の献立の作成、見直す。家族メニューを提供して頂く。誕生日には利用者の好みのメニューを提供する。	6ヶ月	藤原未来
1		利用者(特にデイ)がどのような経緯で今ここにしているのかを理解できていない。どのような生活をしていて、得意なことがあるのかなど知らない事が多い。	利用者の今までの生活の様子を知り、より良いコミュニケーションを図る。	利用者とは話ししながら以前の生活の様子を知る。利用者の個人資料を基に知る。	6ヶ月	大瀧ゆみ

目標達成計画

作成日: 平成 23年 12月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】85番地						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	担当
1	49	外出の頻度が少なく、なかなか出かけられない。スタッフ同士の声かけ(外出、散歩)もできていない。何となくの流れで1日が終わってしまっている。	行事や教室のない日はできるだけ外出できるようにする(時間を有効に使う)	日勤帯(9時)にその日の過ごし方をスタッフと話し合い、散歩又は外出を決め、実行できるように皆で協力する。勤務表ができた段階で、翌月のユニットの外出ができないか検討し、できれば計画を立てる。	12ヶ月	光部
2	10	家族からの返信用紙(月1回)の内容をスタッフ間で話し合えていない。その用紙に質問が書いてあっても対応をしていないと思われる。	家族要望をきちんと受け止め対応ができるようにする。	家族要望についてはスタッフで話し合い検討する。質問に対応をする。ユニット会議時に話し合う。急ぎであればリーダーを通して相談、対応をする。質問については、案件に応じ電話や訪問時に返答をする。	12ヶ月	光部
3	47	薬の副作用について把握できていない。	薬の作用、副作用を全職員が把握できるようにする。	副作用一覧を作成する。	12ヶ月	光部
1	24	一人一人の生活歴を見ても本人のためになることがあまり無いときもある。	一年を通して本人の生活スタイルを再確認し、本人が望むことをできるだけかなえる。	月の初めに、その月の行事を決めることになったので、その時、色々取り入れたい。(1年12ヶ月、毎月一人ずつ取組んでいくように計画をしてください)	9ヶ月	森田
2	35	災害が起こったとき、夜勤が一人しかいないとき何をすればよいか理解していない。	時々行われる災害訓練に出来るだけ参加し、行動の順番を知る。	避難訓練や災害訓練に参加し知識を得る。	6ヶ月	森田

(別紙4(2))

事業所名 グループホームたけのこ85番地

目標達成計画

作成日: 平成 23年 12月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】85番地						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	担当
1		ケア会議が行えていない。	ケア会議を行う	以前行っていたように早番のスタッフが15時40分から行うように声をかける。	12ヶ月	伊奈裕輔
2		毎朝掃除を行っていたがベット下、タンスの裏など細かく掃除が行えていない。	月に一度以上はしっかりと掃除を行う。	各居室担当で午後14時以降に掃除を行う、入浴当番にあたっていない日で順番、日を決めておき行う。	12ヶ月	伊奈裕輔
3		避難訓練が行えていない。	月に1度避難訓練を行う。	月初めに避難計画担当を決め、火事、地震、水害等毎回テーマを替え行う。	12ヶ月	伊奈裕輔

(別紙4(2))

事業所名 グループホームたけのこ88番地

目標達成計画

作成日: 平成 23年 12月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】88番地						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	担当
1	52	季節になるとたくさんのゴキブリが発生する。	ゴキブリを駆除する。	ホウ酸団子の作成。	4月～	杉田
2	26	パソコンにある介護計画が古く現状できなくなったこともそのまま残っている。	介護計画の土台を作り直す。	ケア会議とは別にユニット会議にて1～2名ずつ行う。	4ヶ月	杉田
1	18	介助の必要な利用者と一緒に過ごす時間が多いが、自立している利用者さんと関わりを持つ事が少ない。	なるべく平等に時間を過ごしたい。	散歩に行く。おやつ作り、洗濯物たたみなど何か一緒にしながらお話をする。	3ヶ月	鈴木友
2	45	月末は受診が多くスタッフが減るため、入浴できる人数が減ってしまう。	毎日、最低一日おきに入浴をできる。	薬が終わる2～3日前でなく。受診がかたまらないようにバラして受診をする。	6ヶ月	鈴木友

目標達成計画

作成日：平成 23年 12月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】88番地						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	担当
1	2	散歩にいける人が固定されている。	車椅子の方や、歩行に不安の人も、外に出る回数を増やす。	勤務スタッフの人数状況、天候条件等を考えながら、たけのこ周りだけでも外気に触れることを行って行きたい。	6ヶ月	岩見
2	4	運営推進会議に職員が参加する機会が少ないため、内容をほとんど知らない。	職員も会議の内容を知るべきである。	家族や地域の声を聞きたい。議事録の作成やユニット会議での報告を行う。	6ヶ月	岩見
1	7	入浴・着替え時にあざを確認している。虐待防止に努めている。法律の詳細を知らない。	スタッフ一人一人が理解できるようにする。	全員で学べる場を設ける。資料を作成し配布する。	6ヶ月	鈴木知恵
2	24	一人一人ファイリングされた利用者のファイルがある。	利用者の希望に沿うような生活。以前の暮らしをベースとして趣味などその人にあった時間を過ごす。	本人の希望を聞く。一人一人どんなことが得意なのかスタッフが知る。	6ヶ月	鈴木知恵
1		スタッフの人数が少ないとき、車椅子などの利用者の外出頻度が少なく思う。施設内ばかりではなく外に散歩へいけていない。太陽の光をあびて外気を吸えていない。一日眠いという利用者の原因になっているのでは。	時間があるときはなるべく外出散歩をする。	とくに昼食後などに本人の体調や様子を見て外出散歩に行く。	12ヶ月	猪俣宏幸
2		利用者の生活歴などをあまり知れていない。	たけのこに来る前はどんな生活をしてきたのか知り、どんな一日を過ごしていたか知りたい。	時間があるときに利用者本人と談話したり、経歴書類などを見て一人一人のことをもっと理解する。	10ヶ月	猪俣宏幸